

令和5年度

徳島市城西中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教育DXを取り入れた教育活動の推進
- 基礎・基本の定着を図るわかりやすい授業の実践
- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
森根英津子	校長 田村浩康 教頭 桑原ひとみ 教頭 佐藤一郎 教務主任 石井寧 進学主任 豊田勝 1年主任 山田茂美 2年主任 小西智美 3年主任 森根英津子 関係者 オオヤマ駿 山口稔裕 島尾裕介

校長

田村 浩康

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や教職員の情報共有、研修の活用など、教育活動の様々な機会を捉え、取組状況の把握に努める。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭での自主学習を行うことで、知識・技能を習得しようと努力する生徒が多い。 ●自分にとって習得が難しい知識・技能についての認識が不十分のため、定着が進まない生徒が多い。	・毎日の家庭学習に取り組む時間の設定や、自主学習の内容の工夫を行うことができる。 ・授業の準備を整え、課題の達成や宿題の提出等ができる。 ・解答の確認をする際には正確に行い、見直しをする習慣が身についている。	・目標・授業の流れ・振り返りを明確にする。 ・教材の工夫やMetaMoJiCrassroomやミライシード等を活用し、個別最適化された「わかる授業」の実践に努める。 ・反復学習を徹底し、基礎・基本の定着を図る。 ・タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実を図る。 ・丁寧な解答確認を促すとともに、見直しの習慣化に努める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○複雑な思考を必要とする課題についての理解を深め、順序立ててわかりやすく自分の言葉で説明することができる生徒も多い。 ●自分の考えや意見を書く、話す等の表現活動に苦手意識をもつ生徒が多い。また、相手の話を聞き、理解する力に課題がある生徒も多い。	・自分の考えや意見をまとめる力、自分の言葉を文章に表現する力、相手にわかるように伝える力を身につけている。 ・相手の話にしっかりと耳を傾けようとする姿勢や要約する力が身についている。	・学習形態や学習方法を工夫し、話す・聴く・書く等の言語活動の充実を図る。 ・ICTやホワイトボード等を活用し、意見を共有したり、出し合ったり、まとめたりする活動を行う。 ・自分の言葉で書く力やまとめる力をつけるために、ノートやワークシート、タブレットの有効的活用の工夫を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業で与えられた課題等に対して、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら疑問や課題を見つけて自発的に取り組む生徒が少ない点が課題である。 ●自分の学習状況が把握できておらず、知識・技能の習得や思考力を育てるための手立て、方法を見つけれられていない生徒が多い。	・毎日の家庭学習の時間設定を行い、学習習慣を身につけている。 ・授業において、粘り強く課題に取り組もうとする基本的な学習習慣を確立し、主体的に授業に参加できる姿勢が身についている。 ・自分の学習状況を把握し、課題意識を持って学習を進めることができる。	・1時間の授業の目標や学習の流れ、学習の振り返りを提示し伝える。 ・生徒が意欲的に学習に取り組めるような教材や進め方を工夫し、積極的に参加できる雰囲気作り努める。 ・家庭との連携をとりながら、家庭学習の重要性についての理解と協力を図り、学習習慣の定着に努める。 ・家庭でのタブレットの使い方について、家庭との連携を図る。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

